



玉島信用金庫

Tamashima Shinkin Bank

第5回ESG金融ハイレベル・パネル

ESG地域金融促進事業の 取り組みと今後の展開について

玉島信用金庫 常勤理事
経営企画部長
徳田 宰一

1. 玉島信用金庫の歩み

有限責任
玉島信用組合設立

倉敷信用金庫と
合併

**長期経営ビジョン
策定**

第1次中期経営計画
始動

第2次中期経営計画
始動



1914

2002

2018

2021



玉島信用金庫の概要

所在地	岡山県倉敷市玉島1438
設立	大正3年11月7日
出資金	9億700万円
預金残高	3,719億円
貸出金	1,686億円
店舗数	20店舗
従業員数	293人 (2021年3月時点)

お客さま（会員）の成長と夢づくりの支援

2. 本事業取組のねらい

【取り組みのきっかけ】

- 中期経営計画において加速する事業変化の一つとして「脱炭素」を明記
- 取引先企業のサプライチェーンから外されるリスクへの対応が急務
- 岡山県のエリア内使用電力のCO2排出量は全国最大規模
- 当金庫及び取引先双方共にマクロ情報が乏しく、影響が予想しにくい状況

【本事業のねらい】

- 地域企業を支援する信用金庫として、持続可能なビジネスモデル構築手法のきっかけを掴む
- マクロ情報収集ノウハウや脱炭素化の影響度の分析手法を学ぶ
- 外部機関との連携を通じ、地域企業の脱炭素社会への支援をより確実にしていく

3. 本事業の概要

- カーボンニュートラルでの影響が大きい水島地区の2次産業につき、どのような影響が生じるか分析（業態、時間軸、影響度合いに注目）
- 各業態が取るべきアクションプランや支援体制を構築、外部連携も合わせた当金庫の役割を検討

実施項目

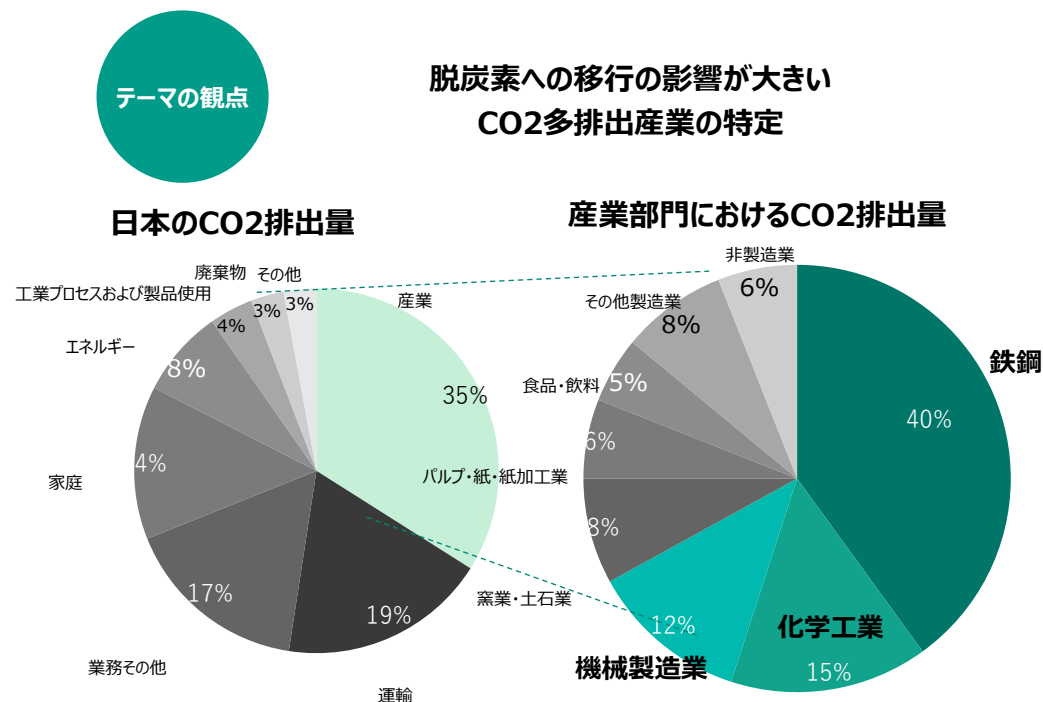
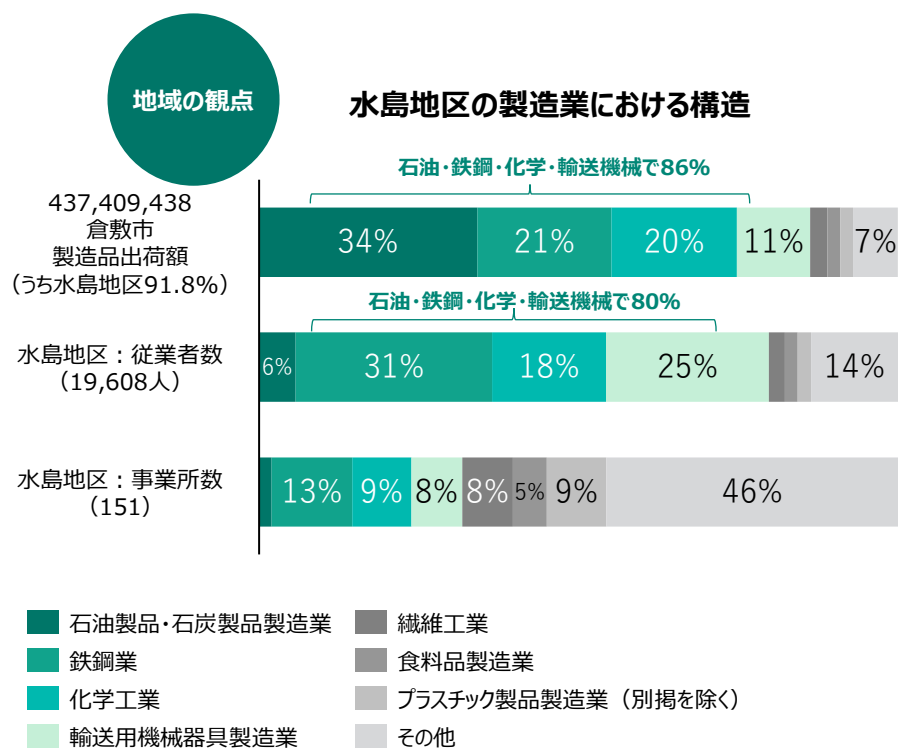
実施目的

現状把握	産業構造の分析	水島地区の主要産業を把握してターゲットを認識。産業集積の構造を把握。
影響分析 (クラスター分析)	外部環境評価	PEST分析や主要産業の動向を把握し地域に影響を与えうる外部環境を評価
	シナリオ 検討	地域への影響分析 セグメント別・企業別 影響分析
アクションプラン の検討	アクションプランの作成	外部環境を考慮し、楽観・悲観シナリオごとの地域経済への影響を把握
	対話ツールの作成	不確実性を伴う中で企業を支援の状況を把握するため、機会やリスクを示唆 クラスター分析を踏まえ、企業や地域の対応事項と金融機関支援策を整理
外部連携	他金融機関等や自治体との連携	金融機関が支援策を実行するために必要なツール、仕組みを整理 地域還元の観点を踏まえ、他金融機関への展開や自治体との支援策を検討

4. 本事業の取り組み詳細

①現状把握

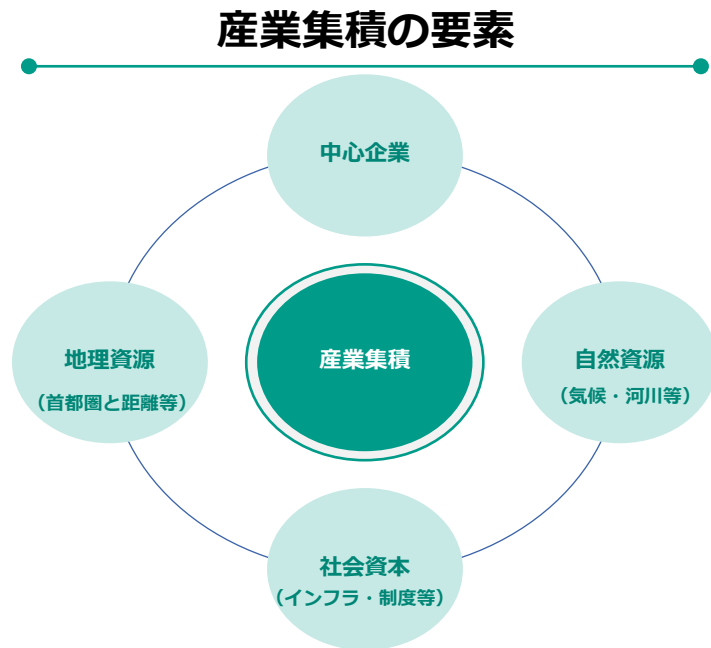
- 地域の産業構造を把握、地域経済及び脱炭素への移行での影響が大きい産業を特定
- 結果として、「鉄鋼」、「化学」、「自動車」産業を対象産業として特定



4. 本事業の取り組み詳細

①現状把握

- 水島地区において産業集積が生じている要因（地域資源）を自然資源・地理資源・社会資本・中心企業の観点から分析
- 分析の結果、安定した海域や結節点であること、港湾施設や交通利便性の高さを確認



水島地区における集積の要因

自然資源・地域資源（第一の自然）

安定した海域
(臨海部)

中四国・九州の
結節点

インフラストラクチャー（第二の自然）

港湾施設

JR山陽本線
との連携

4. 本事業の取り組み詳細

②外部環境分析

■ 地区外部に関してはPESTの観点、地区内部に関しては大手企業の動向から外部要因の影響を把握

確認事項

確認方法・参照先

水島地区外部

P:政策・規制動向
(倉敷市レベル)

- 倉敷市としての産業政策の考え方、脱炭素に向けた支援の進め方の仮説などに向けた連携

- 各種公開情報
- 市との意見交換(実施済み)

P:政策・規制動向
(国際・国内レベル)

- 炭素税・カーボンプライシングなどの国際的な動向、日本の政策

- 炭素税・カーボンプライシングなどの国際的な動向、日本の政策

T:技術動向

- 鉄鋼や自動車、工作機械関連の国際的な/日本における技術動向

- IEA等の国際的なシナリオ
- GI基金、グリーン成長戦略等

E, S:市場・需要動向

- 自動車など、最終製品分野の需要動向を整理する

- 各種業界レポート
- 政府統計等のマクロデータ

大手企業動向

- JFE、三菱自動車など、VC上で影響力が大きいと考えられる企業の動向を把握する

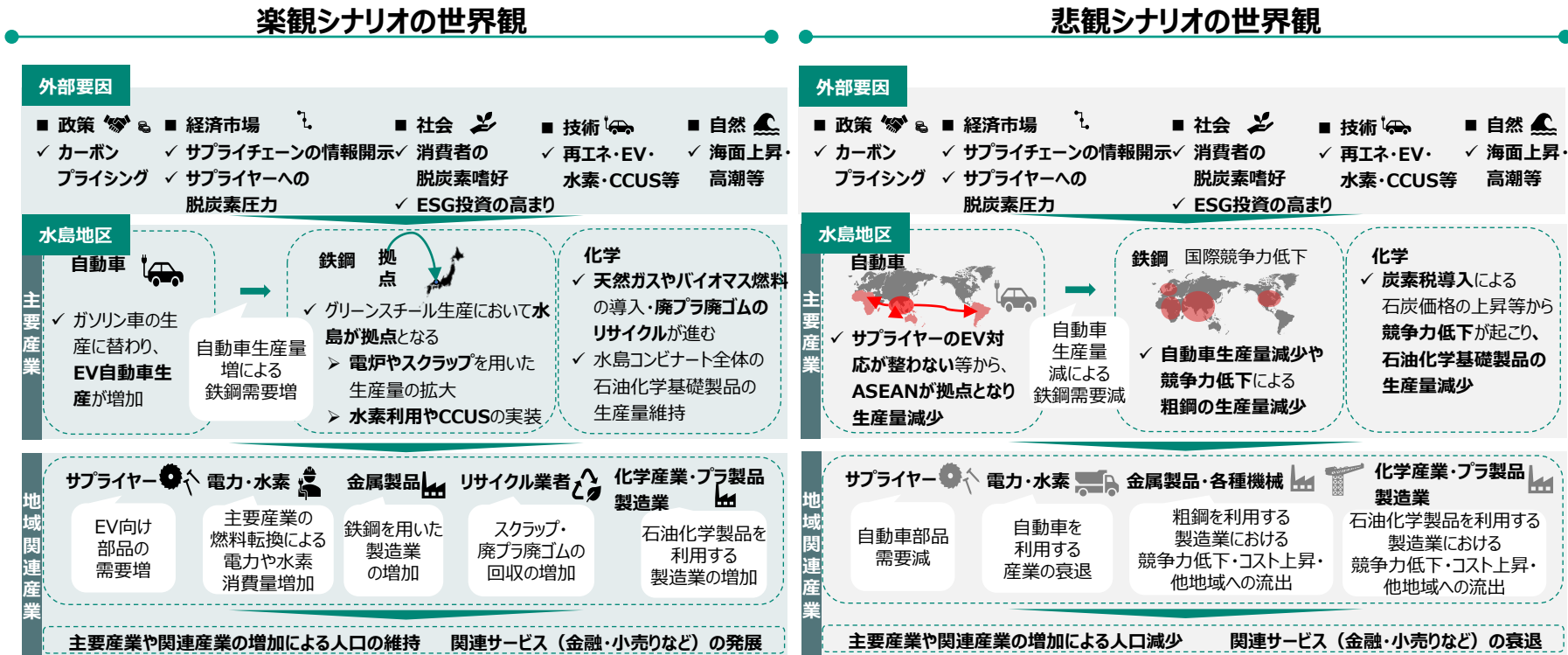
- 企業公開情報
- 企業担当者へのヒアリング

水島地区内部

4. 本事業の取り組み詳細

③影響分析～シナリオ検討～

■ 中長期的な地域経済の影響を把握するため、主要産業の衰退（悲観）及び現状維持・強化（楽観）シナリオを設定



4. 本事業の取り組み詳細

③影響分析～セグメント、企業別影響分析～

■ 売上・費用の観点から対象産業の業種と納品先・最終製品から影響を分析

セグメント別・企業別影響分析の考え方

セグメント別・企業別影響分析の評価項目

セグメント別・企業別影響分析の考え方		セグメント別・企業別影響分析の評価項目		
		評価項目	概要・考え方	指標
<p>対象産業</p> <p>×</p> <p>納品先・最終製品</p>	<p>✓取引先企業の業種 例：鋳造、一般機械製造業等</p> <p>✓納品先事業者や最終製品の業種 例：農機具向け、自動車部品向け等</p> <p>✓自動車向けについてはEVの影響有無を踏まえて分類</p>	<p>売上 関連</p>	<p>対象産業に対する需要</p> <p>+</p> <p>対象製品・サービスに対する需要</p>	<p>✓納品先産業や最終製品に対する需要の変化 ※自社の製品が最終製品等であれば本項目は除外</p> <p>✓将来の納品先産業あるいは最終製品の需要/生産量 ※今回は地域全体分析での定量分析結果を活用し5段階に分類</p>
			<p>費用 関連</p>	<p>対象製品・サービスに対する需要</p> <p>操作関連の費用動向</p> <p>開示等関連の費用動向</p>

4. 本事業の取り組み詳細

③影響分析～セグメント、企業別影響分析～

- 悲観シナリオにおいては、EV化による影響を受ける自動車部品製造及び自動車部品製造向けの金型製造事業者のリスクが高い
- 楽観シナリオでは、スクラップ製造事業者やプラント保守関連事業者にとっての機会が大きくなる

例) セグメント別・企業別影響分析の事例(楽観シナリオ)

セグメント	売上	費用			合計	
		操業	開示等	費用合計		
製品製造 鉄 鋳造	農機具向け	3	1	4	2.5	2.75
	建設器具向け	3	1	2	1.5	2.25
	自動車部品製造 EV影響なし	2	3	1	2	2
	自動車部品製造 EV影響あり	1	3	1	2	1.5
自動車部品製造	EV向け	4	3	1	2	3
	農機具部品製造	3	3	4	3.5	3.25
	スクラップ製造 (鉄屑+再生資源回収+加工処理)	5	2	2	2	3.5
機械部品 金型製造	自動車部品製造向け (EV影響なし)	2.5	2	1	1.5	2
	自動車部品製造向け (EV影響あり)	2	2	1	1.5	1.75
	自動車部品製造向け (EV向け)	3.5	2	1	1.5	2.5
電子・精密機械製造 (その他電子部品)	自動車部品製造向け (EV影響なし)	2.5	4	1	2.5	2.5
	自動車部品製造向け (EV影響あり)	2	4	1	2.5	2.25
	自動車部品製造向け (EV向け)	3.5	4	1	2.5	3
産業機械部品製造	その他	3	4	3	3.5	3.25
	鉄鋼向け	4	3	5	4	4
	海運向け	3.5	3	4	3.5	3.5
保守 プラント保守 (建設補修)	その他	4	3	3	3	3.5
	石油化学向け	5	3	5	4	4.5
	鉄鋼向け	4	3	5	4	4

1

2

3

4

5

リスク高

↓

機会大/悪影響が少ない

4. 本事業の取り組み詳細

④アクションプラン及び外部機関との連携

■当金庫として今後取るべきアクションプラン及び各機関との連携を検討

黒字：現状当庫で実施している事業
赤字：今後当庫で検討、実施していく事業

	対象	実施事項詳細	連携先
情報提供・啓蒙	<ul style="list-style-type: none"> 取引先全体 	<ul style="list-style-type: none"> シナリオを用いた脱炭素取組の必要性啓蒙 倉敷市及び高梁川流域の金融機関と連携したセミナー実施 行政等とも連携した大手企業動向の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 倉敷市 高梁川流域 取引先企業
金融支援	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資等が必要な企業 省エネ・高効率化の取組が必要な企業 事業転換・多角化が必要な企業 	<ul style="list-style-type: none"> 疑似資本制ローンを利用した資金調達 脱炭素関連の融資商品の開発 ファンドを活用した資金調達 環境関連施策の情報収集及び提供（SII等） 	<ul style="list-style-type: none"> REVIC（ファンド）
ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資等が必要な企業 DX、GHG排出量の測定が必要な企業 省エネ・高効率化の取組が必要な企業 事業転換・多角化が必要な企業 自社の課題が不明瞭な企業 	<ul style="list-style-type: none"> 補助金等の政策の活用（ものづくり、事業再構築等） 専門家派遣による事業コンサル M&Aによる事業多角化 エネマネ事業者等の登録制PF作成 T.A.S.K.Shareの活用による課題解決 有料職業紹介事業 	<ul style="list-style-type: none"> 行政・自治体（倉敷市等） OMBC（専門家） CRC（専門家） 提携業者（M&A、登録制PF等）
マッチング	<ul style="list-style-type: none"> DX、GHG排出量の測定が必要な企業 省エネ・高効率化の取組が必要な企業 販路開拓が必要な企業 人材確保が必要な企業 	<ul style="list-style-type: none"> TBAの活用による販路拡大 マッチング掲示板等を利用した取引先同士のマッチング 各種業務提携先とのマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先企業 高梁川流域 提携業者（各種マッチング）

5. 本事業を通じて感じたこと

【取り組みの振り返り】

- 当初水島地区においては**移行リスク偏重の認識**
 - ➔ **大きな機会も存在**することが判明
- 中小零細企業は**マクロ情報が乏しい**
 - ➔ 脱炭素への**「気づき」と「行動」**を促すことが重要
- 中小零細企業は**CO2を「量る」**ことが課題
 - ➔ バックオフィスのデジタル化
 - ➔ 脱炭素への取り組みと**DX化との密接な関係**を認識

6. 今後の取り組みについて

「気づき」の検討

本事業に
おける
対話ツール

セミナー
開催での
啓蒙活動

4類型のどれに
当てはまるかを
対話を通じ検討

「方向性」の検討

既存事業の維持・強化

「異分野」への進出
(川上 / 川下)

「異業種」への進出

廃業

類型に応じた
支援策の検討
及び
ビジネスモデル
再構築支援

「再構築」の支援

外部機関と連携した
具体的支援策の展開

情報提供・啓蒙

金融支援

ソリューション

マッチング

ご清聴、ありがとうございます